

令和4年度 国語科「現代の国語」シラバス

| | | | |
|-----|-------------|----------|---|
| 単位数 | 2単位 | 学科・学年・学級 | 普通科1年1～8組 |
| 教科書 | 現代の国語(東京書籍) | 副教材等 | 新訂国語便覧(第一学習社) 古文単語330(いしずな書店) 完全マスター古典文法(第一学習社) |

1 学習の到達目標

| |
|--|
| <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p> |
|--|

2 学習の計画

| 月 | 育成する資質能力 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価材料 |
|----|---|---------------------|---|---|--------------------------|
| 4 | <p>・言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。</p> <p>・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</p> <p>・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。</p> | 【読解編】 1 視点を交える | 『木を見る、森を見る』 『技術が道徳を代行するとき』 『水の東西』 | <p>・本文を通読し、問題点をつかみ論旨をまとめる。</p> <p>・言葉には認識や思考を支える働きがあることを理解する。</p> | 小テスト 行動観察 ワークシート分析 |
| 5 | | 【探究編】 | 本を紹介する 手順を整理して正確に伝える | <p>・クラス全体に、班として本を紹介する。</p> <p>・グループに分かれて手順書を読み合い、改善点を探して助言し合う。</p> <p>第1回考査</p> | 行動観察 生徒による評価の分析 |
| 6 | <p>・目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。</p> <p>・自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。</p> <p>・文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。</p> <p>・比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うことができる。</p> | 【読解編】 2 言葉へのまなざし | 『「身銭」を切るコミュニケーション』 『言葉は世界を切り分ける』 『解釈』 | <p>・本文を読み、どのような具体例が挙げられているか、またそれが本文の論述にどのような効果をもたらしているか、気づいたことを発表する。</p> <p>・印象に残った表現、文章の構成の仕方などについて気づいたことを挙げる。</p> | 小テスト 行動観察 ワークシート分析 |
| 7 | | 【探究編】 | 発想を広げて課題を見つける 新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる | <p>・各グループの話し合いの成果を発表し合い、全体で共有する。</p> <p>・グループ内で、できたこと、できなかったことを話し合い、振り返りの確認をする。</p> <p>第2回考査</p> | 行動観察 発表分析 |
| 9 | <p>・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。</p> <p>・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。</p> <p>・目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。</p> | 【読解編】 3 メディアを考える | 『広告の形而上学』 『時間と自由の関係について』 『映像文化の変貌』 | <p>・引用された言葉の意味を明らかにし、比喩の示す内容について確認する。</p> <p>・筆者の主張を要約し、その主張に対する自分の考えを書く。</p> | 小テスト 行動観察 ワークシート分析 |
| 10 | | 【探究編】 | メディアを適切に使い分けながら、情報を収集する 調べた情報を説明資料にまとめる | <p>・収集した情報を基に、各メディアの特徴や長所・短所について、手軽さ・信頼性・発展性などの観点から話し合う。</p> <p>・説明資料を読み合い、資料の作成過程で生じた困難や浮かんだ疑問・気づきなどを話し合う。</p> <p>第3回考査</p> | 行動観察 課題分析 |

| | | | | | |
|--------------|--|----------------------------------|--|--|--|
| 11 | ・実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 ・論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。 | 【読解編】 4 共に生きる 【探究編】 | 『真の自立とは』 『自立と市場』 『共鳴し引き出される力』 異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く 情報を整理しながら話し合う | ・筆者の主張を踏まえ、「自立」と「依存」の関係について具体例を挙げて考える。 ・筆者が「評価すべき点」と「注意すべき点」をどのように捉えているか、読み取りまとめる。 ・「メモの例」を読み、読み比べた文章の内容や自分で考えたことを簡潔にメモする方法を確認する。 ・提案者が各案を説明し、質疑応答をしながら検討事項を表に整理し、話し合う。 | 小テスト 行動観察 ワークシート分析 行動観察 課題分析 |
| 第4回考査 | | | | | |
| 1 | ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。 | 【読解編】 5 科学から見た人間 【探究編】 | 『生物の多様性とは何か』 『人工知能はなぜ椅子に座れないのか』 『学ぶことと人間の知恵』 論証してレポートを書く 探究したことを発信する | ・内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。 ・内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりする。 ・レポートを書くうえで一般的に必要とされている形式を理解する。 ・自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考える。 | 小テスト 行動観察 ワークシート分析 行動観察 課題分析 |
| 2 | | 【読解編】 | 『暇と退屈の倫理学』 | ・接続語に着目し、その前後の段落の展開のしかたについて考え、まとめる。 | 小テスト |
| 3 | | 6 近代の先へ | 『（私）時代のデモクラシー』 『鳥の眼と虫の眼』 | ・筆者の提起した課題について読み取り、それに対する自分の考えをまとめる。 | 行動観察 ワークシート分析 |
| 第5回考査 | | | | | |

3 評価の観点

| | |
|---------------|---|
| 知識・技能 | ア言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。イ話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使うことができる。ウ常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。エ実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。オ文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。カ比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うことができる。 |
| 思考・判断・表現 | 【話す・聞く能力】ア目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。イ自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫している。ウ話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫している。エ論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりしている。オ論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話し合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話し合いの仕方や結論の出方を工夫している。 【書く能力】ア目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にしている。イ読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。ウ自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫している。エ目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 【読む能力】ア文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。イ目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けようとしている。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。 |

4 評価の方法

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

「現代の国語」は実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力の育成に主眼を置き、全ての生徒に履修させる科目です。小・中学校の内容を発展させて総合的な言語能力を育成し、社会人として生活するために必要な基礎を確実に身に付けることをねらいとしています。
生徒の皆さんは積極的な学習態度を心がけ、国語や言語文化への関心を深め、辞書や副教材を有効に活用して進んで知識を身に付けましょう。家庭でも読書の習慣を付け、新聞等も含めた様々な文章に日々接することで視野を広げましょう。
教科書・ノート・辞書・副教材等、忘れ物をしないように注意し、提出物や課題は期限を守って必ず提出しましょう。

令和4年度 国語科「言語文化」シラバス

| | | | |
|-----|--------------|----------|---|
| 単位数 | 3 | 学科・学年・学級 | 普通科・1年・1組～8組 |
| 教科書 | 精選言語文化（東京書籍） | 副教材等 | 新訂国語便覧（第一学習社） 古文単語330（いいずな書店） 完全マスター古典文法（第一学習社） |

1 学習の到達目標

| |
|---|
| <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。（知識・技能）</p> <p>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。（思考力・判断力・表現力等）</p> <p>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p> |
|---|

2 学習の計画

| 月 | 育成する資質能力 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価材料 |
|----|---|---------------------------|---|--|-----------------------------|
| 4 | ・作品や文章に表れているものの味方、感じ方、考え方を捉え、内容を理解している。 | 現代文編 1 随筆 | 『言葉を届ける』（東直子） 『耳覚めの季節』（青山七恵） | ・本文を通読し、筆者の感じ方を捉え、言葉との出会いについて考える。 ・特徴的な表現についてその意味や効果を考察し、自分の考えを発表する。 | 行動観察 小テスト 提出物・レポート等分析 |
| 5 | ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 | 古文編 1 古文入門 | 『宇治拾遺物語』 『今鏡』 『十訓抄』 古文学習のしるべ1・2・3 | ・説話、歴史物語について理解する。 ・本文を通読し歴史的仮名遣いに慣れる。 ・登場人物の言動について理解する。 ・古語の品詞や活用について理解し、古語辞典の引き方を学習する。 | 行動観察 小テスト 提出物・レポート等分析 |
| | ・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 | 現代文編 2 小説1 | 『羅生門』芥川龍之介 『雨漏りの音』長嶋有 | ・全文を通読し、時代背景、場面の変化に注意する。 ・登場人物の心理・行動を整理する。 ・作品の終わり方に着目し、作者の意図を考える。 ・作品の主題について発表する。 | 行動観察 小テスト 提出物・レポート等分析 |
| 6 | | 漢文編 1 漢文入門 | 訓読の基本 訓読・格言・再読文字 | ・漢文の基本構造を理解し、訓点・書き下し文に慣れ、漢和辞典を活用する。 ・本文を音読し、書き下し文にする。 | 行動観察 小テスト 提出物・レポート等分析 |
| 7 | ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 | 2 寓話 3 詩文 | 故事成語 矛盾・助長・推敲 漢文の窓①②③ 『戦国策』『列子』『淮南子』 絶句と律詩 漢文の窓④ | ・正確に現代語訳し、内容を理解する。 ・国語便覧等を使い、再読文字・助字について確認する。 ・本文を音読し漢文特有の読みに慣れる。 ・表現の種類・用法を確認し、整理する。 ・現代語訳し、寓意を理解し、現代語に生きる故事成語について理解を深める。 | 行動観察 小テスト 提出物・レポート等分析 |
| | ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考え方を広げたり深めたりしようとしている。 | 現代文編 3 詩歌 | こころの鉦-短歌抄 | ・掲載された短歌を音読し、リズムを味わい短歌に慣れる。 ・読解・鑑賞し、印象に残った一首について感想文を書く。 | 行動観察 小テスト 提出物・レポート等分析 |
| 9 | ・言葉には、文化の伝承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 | 古文編 2 随筆 3 歌物語 4 日記 | 『徒然草』 『方丈記』 『枕草子』 古文の窓①②③④⑤ 『伊勢物語』 古文学習のしるべ4 『土佐日記』 | ・作者について必要な知識を得る。 ・話の筋を読み取り、心情を理解する。 ・それぞれの話の面白さや教訓について理解し、主題を把握する。 ・古典文法を理解し、現代語訳する。 ・歌物語について概略を理解する。 ・本文を音読し、現代語訳・歌の解釈を行い、男女の心情、登場人物の心理について話し合う。 | 行動観察 小テスト 提出物・レポート等分析 |
| 10 | ・自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 | 現代文編 3 詩歌 | 秋の航-俳句抄 現代文の窓① | ・俳句の基礎知識を確認し興味を持つ。 ・掲載された俳句を音読し、リズムを味わい、俳句に慣れる。 ・それぞれの句について読解・鑑賞する。 ・印象に残った一句を感想文に書く。 | 行動観察 小テスト 提出物・レポート等分析 |
| | ・作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を理解している。 | | | | |

| | | | | | |
|----|---|--|--|--|---|
| 11 | <p>・言語がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。</p> | <p>現代文 3 詩歌 漢文編 4 史話 5 思想</p> | <p>『小景異情』室生犀星 『一つのメルヘン』中原中也 『I was born』吉野弘 『あいだ』小池昌代 『史記』『十八史略』 『論語』『孟子』 漢文の窓⑥</p> | <p>・文語詩、リズム等を意識して音読し、気づいた点を発表する。 ・特徴的な表現について読みを深める。 ・心理や情景の描写に着目し、作者の思いを考えて話し合う。 ・注釈や国語便覧などを利用し、作品の成立時期・著者・紀伝体等を理解する。 ・本文を音読し書き下し文にする。 ・脚注・辞書等を参照しながら句法に注意して正確に現代語訳する。 ・中国古代思想について理解を深める。</p> | <p>行動観察 小テスト 提出物・レポート等分析 行動観察 小テスト 提出物・レポート等分析</p> |
| 12 | <p>・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることを身に付けようとしている。</p> | <p>現代文編 4 小説2</p> | <p>『富岳百景』太宰治 『鏡』村上春樹 現代文の窓②③ 第4回考査</p> | <p>・国語便覧等を利用し、作者についておおよその知識を得る。 ・作品構造の意図や効果について考える。 ・登場人物の心情の変化に着目し、表現の魅力について考え、主題を明らかにする。 ・小説の魅力について話し合い、紹介したい作品についてスピーチする。</p> | <p>行動観察 小テスト 提出物・レポート等分析</p> |
| 1 | <p>・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。</p> | <p>古文編 5 和歌 6 作り物語と軍記物語</p> | <p>『万葉集』 『古今和歌集』 『新古今和歌集』 古文の窓⑥⑦ 古文学習のしるべ5 『竹取物語』 『平家物語』</p> | <p>・各歌集の文学史的知識を確認する。 ・歌のリズム、句切れ、技法などに留意しながら範読を聞き、音読する。 ・それぞれの歌を鑑賞し、詠まれた情景や心情を読み取り、まとめる。 ・物語の特徴を踏まえ音読する。 ・敬語等、文法的事項に留意し、正確に現代語訳し、心情や情景を読み取る。</p> | <p>行動観察 小テスト 提出物・レポート等分析</p> |
| 2 | <p>・作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを確立している。</p> | <p>現代文編 5 作品を読み比べる</p> | <p>桜に関する作品を読み比べる</p> | <p>・桜についての詩歌や文章を通読する。 ・古典の和歌と近現代の詩歌、及び随筆において桜がどう詠まれたかを比較鑑賞し、作者の思いを捉える。 ・気づいたことを文章にまとめる。</p> | <p>行動観察 小テスト 提出物・レポート等分析</p> |
| 3 | <p>・自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。</p> | <p>古文編 7 俳諧</p> | <p>『奥の細道』 第5回考査</p> | <p>・作品、作者等について国語便覧等で調べ、分かったことを発表する。 ・全文を通読し、場所を意識しながら概略を読み取る。 ・作者が旅をどう捉えているかをまとめ、自然、人為の対比を理解し、「漂白の思い」に迫る。</p> | <p>行動観察 小テスト 提出物・レポート等分析</p> |

3 評価の観点

| | |
|--------------|--|
| <p>知識・技能</p> | <p>ア 言葉には、文化の伝承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 イ 常用漢字の読み慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 ウ 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。 エ 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。</p> |
|--------------|--|

| | |
|----------------------|--|
| <p>思考・判断・表現</p> | <p>【書く能力】 ア 自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。 イ 自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。</p> <p>【読む能力】 ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 イ 作品や文章に表れているものの味方、感じ方、考え方を捉え、内容を理解している。 ウ 文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 エ 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の理解を深めている。 オ 作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを確立している。</p> |
| <p>主体的に学習に取り組む態度</p> | <p>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることを身に付けようとしている。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考え方を広げたり深めたりしようとしている。 (3) 言語がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。</p> |

4 評価の方法

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から総合的に判断する。

5 担当者からのメッセージ(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

古典から近現代の語句や表現に興味関心を持ち、作品を通じて文章力・表現力・読解力・語彙力を向上させ、総合的な国語力を養います。様々な文章に接することにより多様な価値観を持ち、学問的視野を広げましょう。辞書や副教材を活用し、予習・復習をしましょう。授業では疑問の解決に務め、提出物は期限を守りましょう。

| | | | |
|-----|------------------------|----------|-------------|
| 単位数 | 2単位 | 学科・年次・学級 | 普通科 1年次 全学級 |
| 教科書 | 地理総合（実教出版） 新高等地図（東京書籍） | 副教材等 | なし |

1 学習の到達目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

1. 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
2. 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目し、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを効果的に説明したり、それを基に議論したりする力を養う。
3. 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする事の大切さについての自覚などを深める。

2 学習の計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
|----|---|--|---|---|--|
| 前期 | 4 | 第1編地図や地理情報システムでとらえる現代世界 | <ul style="list-style-type: none"> 球面と平面 緯度と経度 | 投影法の種類とその特徴を学習する。経緯度と時差・気候等人間生活との関係を学習する。 | 【知識・技能】 定期考査、課題 |
| | 5 | | <ul style="list-style-type: none"> 日常生活のなかの地図 日本の位置と領域 | 地形図の読取り、デジタル地図・GISの利用ができる。日本の領域等を確認し、日本の領土問題を考察する。 | |
| | 6 | <ul style="list-style-type: none"> 国家間の結び付き モノ、人、情報のグローバル化 | 国連、地域経済統合、EPA等を学習する。 世界の運河、ハブ空港等を学習し、日本との関係を考察する。 多様化する世界の観光と日本の観光政策を学習する。 | 【思考・判断・表現】 定期考査、課題、質疑応答・口頭発表 | |
| 前期 | 6 | 第2編国際理解と国際協力 第1章生活文化の多様性と国際グループ1自然環境と生活文化 | <ul style="list-style-type: none"> 山地における人々の生活 平野に展開する人々の生活 海岸地形と人々の生活 | 山地の成因、くらし、多面的機能を学習する。 氾濫原、三角州の利用と災害について学習する。 リアス海岸のくらしと防災（津波災害）について学習する。 | 【主体的に学習に取り組む態度】 活動の様子、質疑応答・口頭発表、ノート、課題 |
| | 7 | | <ul style="list-style-type: none"> 熱帯の気候と生活との関わり 乾燥帯の気候と生活との関わり 温帯の気候と生活との関わり 亜寒帯、寒帯の気候と生活との関わり | 熱帯の自然環境とくらしを学習し、環境問題（熱帯林破壊）を考察する。 乾燥帯の自然環境とくらしを学習し、環境問題（砂漠化）を考察する。 温帯の自然環境とくらし、自然環境の改変の経緯を学習し、環境と人間について考察する。 亜寒帯、寒帯と伝統的なくらしを学習し、環境問題（地球温暖化、オゾン層破壊）の影響を考察する。 | |
| 前期 | 8 | 第3編持続可能な地域づくりと私たち 第1章自然災害と防災 | <ul style="list-style-type: none"> 日本の自然環境 | 日本のプレート、地形、気候について学習し、その基本的知識を身につける。 | |
| | 9 | | <ul style="list-style-type: none"> 地震・津波 | 東日本大震災等を例に地震・津波の発生のメカニズムとその被害の実態、復興への歩みを学習する。 | |
| | 9 | | <ul style="list-style-type: none"> 火山災害と対策 風水害 雪害、高温と対策 防災・減災への取り組み | 具体例（伊豆大島、阿蘇、桜島、普賢岳等）を基に火山とくらし、火山災害とその対策を学習する。 ゲリラ豪雨、都市型水害、台風等の被害の現状と対策を考察する。タイムラインを作成する。 豪雪地域のくらし、大都市が雪に弱い要因を学習する。ヒートアイランドのメカニズムを理解する。 ハザードマップを活用したり、過去の自然災害に学び、自然災害に備え、発災時に適切な行動を取れる素養を身に付ける。 | |
| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |

| | | | | | |
|-----|-----------------------------|--|---|--|--|
| 後期 | 10 | 第2編国際理解と国際協力 多様な文化・生業に彩られた人々の暮らし東南アジア | <ul style="list-style-type: none"> 重層的な文化と多様な生業 グローバル化時代の農業と環境 経済発展と地域内の連携 | <p>東南アジアの自然環境の特徴と多様な宗教・言語・民族文化について学習する。</p> <p>稲作（モンスーン、沖積平野）、プランテーション（植民地支配、開発輸入、環境破壊）について学習する。</p> <p>東南アジアの工業化（輸出指向型の工業化、ASEANの役割）について学習する。</p> | <p>【知識・技能】 定期考査、課題</p> <p>【思考・判断・表現】 定期考査、課題、質疑応答・口頭発表</p> |
| | 11 | イスラムと結び付く生活文化 西アジア・北アフリカ | <ul style="list-style-type: none"> イスラームと深くかかわる生活文化 産業の発展とイスラーム社会の変化 紛争と社会運動 | <p>イスラームの特徴、ムスリムの信仰と生活について学習し、異文化を理解し、寛容な態度を身に付ける。</p> <p>OPEC, OAUPECの結成と世界経済への影響、産油国と非産油国の格差、脱石油への取り組み（ドバイ）について学習する。</p> <p>パレスチナ問題、専制国家、イスラーム原理主義、アラブの春について学習し、その世界への影響を考察する。</p> | <p>【主体的に学習に取り組む態度】 活動の様子、質疑応答・口頭発表、ノート、課題</p> |
| | 12 | 国家の統合と生活文化 ヨーロッパ | <ul style="list-style-type: none"> 地域の統合の深化・拡大 地域の統合と多文化共生 | <p>EU統合の歩み、拡大・深化について学習し、ブレグジット、難民問題、ウクライナ問題への理解を深める。</p> <p>ドイツ、スイス、ベルギーを例に多文化共生について学習し、その課題を理解し、課題解決のため何が出来るかを考察する。</p> | |
| 1 | 移民による多文化社会の形成と変容 ラテンアメリカ | <ul style="list-style-type: none"> 先住民と移民がおりなす生活 独自のラテン系文化の形成 | <p>先住民の古代文明、植民地支配、移民について学習する。</p> <p>先住民・移民等の文化が融合し、発展してきたラテンアメリカの文化について学習する。</p> | | |
| 2・3 | 地球的課題と国際協力 | <ul style="list-style-type: none"> 移民がもたらした大規模な農業 移民が興した鉱工業とその発展 人口問題、食糧問題、都市・居住問題、エネルギー問題、地球環境問題 | <p>ブランテーション、穀物農業の発展とその課題（経済格差、環境問題）について学習する。</p> <p>工業化の歩みと課題、経済統合を学習する。</p> <p>持続可能な社会の形成を目指し、人類が直面する諸課題を地球的規模で考察し、身近な生活の見直し、諸課題の解決につながる様々な行動を主体的かつ積極的に取れるようになる。</p> | | |
| | | | 第3回考査 | 教科書174-195P、58-67P | |
| | | | 第4回考査 | 教科書72-89、94-105P | |
| | | | 第5回考査 | 教科書94-105P、132-139P、150-173P | |

3 評価の観点

| | |
|---------------|--|
| 知識・技能 | 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現 | 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論する力を身に付けている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めている。 |

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

地理的な見方・考え方とは、世界各地域の特徴を資料・統計資料・地図などを使って確認でき、その中に多様性・共通性・法則性を見だし理解することです。これらを通して、多様で変化し続ける国際社会に生きる日本国民としての自覚と資質、異文化への寛容な態度を養うことがこの科目を学ぶ意義の1つです。新聞・ニュース等を通して激動する世界の動向に関心を持ち続けて下さい。2つ目の意義は防災への関心を高め、基礎的知識を身に付け、過去の災害例に学び、生命・くらし・国土を守る素養と意識を涵養することです。日本は地形・気候等の特徴から多くの自然災害に直面してきました。近い将来、巨大台風、巨大地震に遭遇する確率が高い私たち。学ぶことが命と暮らしを守ることに繋がると思います。学ぶ意義を問い続けながら、必修になった地理総合に取り組んで下さい。

| | | | |
|-----|--------------|----------|---------|
| 単位数 | 2単位 | 学科・年次・学級 | 1年次 全学級 |
| 教科書 | 詳述歴史総合（実教出版） | 副教材等 | |

1 学習の到達目標

| |
|---|
| <p>1 社会的事象の歴史的な見方・考え方を養う。 2 歴史の大きな変化に着目し、世界とその中の日本を広く相互的な視野で捉える。 3 資料を活用しながら、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する。</p> |
|---|

2 学習の計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
|----|---------------|---|--|--|---|
| 前期 | 4 | 近代化への胎動 | 歴史の扉 | 高校の歴史学習の動機付けと以後の学習に必要な学び方を身に付ける | 授業態度 (グループワーク・発表等) |
| | 5 | | ヨーロッパの海外進出と市民社会 清の繁栄 | ヨーロッパとアメリカ大陸・アジアとの貿易の展開や18世紀のヨーロッパの変化を考える 清が長期間繁栄した要因や当時の経済活動を考える | |
| | 6 | 欧米の市民革命と国民国家の形成 | 江戸時代の日本の対外政策 | 対外貿易を管理した江戸幕府の支配体制を考える | 提出課題 小テスト ノート提出 |
| | | | イギリス産業革命 | 産業革命が進んだ背景を理解し、革命以降のイギリス社会の変化を考える | |
| 7 | アジアの変容と日本の近代化 | ウィーン体制 アメリカの発展と分裂 「大分岐」について考える アヘン戦争の衝撃 開国 富国強兵と文明開化 議場が語る立憲制 | ウィーン体制のねらいと崩壊にいたる過程や背景を アメリカの領土拡大や奴隷制の廃止の過程を考える 産業革命以降の欧米諸国の工業発展とその影響について考える アヘン戦争が生じた背景と結果、その影響を考える 日米和親条約・日米修好通商条約による政局への影響を考える 文明開化や教育制度改革による近代化と問題点を考える 当時のイギリス・ドイツの議会政治・政治体制を調べ、日本の政治体制を考える | | |
| 9 | 帝国主義の時代 | 帝国主義と世界分割 日本の産業革命と社会問題 博覧会にみる近代 | 第2次産業革命と帝国主義を考える 日本の産業革命の特徴と世界経済における日本の位置の変化を考える 博覧会の展示を通じて、アジア・アフリカに対する日本人の意識を考える | | |
| 後期 | 10 | 第一次世界大戦と大衆社会 | 第一次世界大戦 大戦景気と米騒動 第3回考査 植民地 | 戦争がヨーロッパから世界に拡大する過程を考える 大戦景気をもたらした社会の構造の変化を考える 植民地化の動きと現代まで続く問題を考える | 授業態度 (グループワーク・発表等) 提出課題 小テスト |
| 後期 | 11 | 経済危機と第二次世界大戦 | 戦間期の欧米 ひろがる社会運動と普通選挙の実現 20世紀の女性と男性 ファシズムの時代 | 大戦後のヨーロッパの状況と女性参政権の拡大を考える 社会運動の展開と政府の対応を考える 20世紀における女性の社会進出について考える ナチスの主張と政権獲得の過程を考える | ノート提出 |

| | | |
|----|--|---|
| 12 | 第二次世界大戦と アジア太平洋戦争 敗戦 第4回考査 | 日本が起こした戦争とその展開を考える 第二次世界大戦末期の社会の様子を考える |
| 1 | 戦争の記憶 民主化と日本国憲法 冷戦の開始 | 戦争の記憶を伝えるための方法を考える 日本国憲法の制定過程と憲法の特徴を考える 欧米諸国の対立とアジアへの拡大を考える |
| 2 | 多極化する世界 石油危機と世界経済 | 石油危機前後の国際経済体制の変化を考える |
| 3 | 近現代史のなかの エネルギー 日本の経済大国化 第5回考査 | エネルギーの変遷を生じさせた要因を考える 日本の経済大国化と国際的地位の向上を考える |

3 評価の観点

| | |
|---------------|--|
| 知識・技能 | 近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉えて理解するとともに、様々な資料をもとに調べ、まとめる技能を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現 | 近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、相互の関連や現在とのつながりに着目して、多面的・多角的に考察できたり、説明できたりしている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 日本や外国の歴史に興味をもち、よりよい社会の実現のために、課題を主体的に追究したり、解決したりしようとしている。 |

4 評価の方法

評価の3観点（主体的に学習に取り組む態度、知識・技能、思考・判断・表現）から総合的に評価します。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

あるトルコ料理店での出来事。日本人の客とトルコ人の店員が、トルコの都市「イスタンブール」について話をしている時に、客が、かつての都市名「コンスタンティノープル」という言い方をした。すると、店員は『その名を使わないでくれ』と迫ったという。
なぜ、店員は「コンスタンティノープル」という言い方を嫌がったのか。また、上記のやりとりから、あなたは何を考えますか。
歴史総合では、歴史上の出来事を多角的・多面的に掘り下げ、話し合いを通して、自分の考えと仲間の考えを比較し、深めていきます。みなさんの積極的な受講態度を期待します。

| | | | |
|-----|---------------------|----------|--------------------|
| 単位数 | 3単位 | 学科・年次・学級 | 普通科 1年次 1～8組 |
| 教科書 | 数学Ⅰ Advanced (東京書籍) | 副教材等 | PRIME 数学Ⅰ+A (東京書籍) |

1 学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通じて、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。

(2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について理論的に考察し表現する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。

(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

2 学習の計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
|----|---|---------------|---|---|---|
| 前期 | 4 | 1章 数と式 | 1節 式の計算 1 単項式と多項式(1) | 式についての用語の意味を理解する。また、特定の文字や式の次数への着目を通して、式について多様な見方をすることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査 |
| | 5 | | 2 多項式の加法・減法・乗法(3) | 多項式の加法・減法、指数法則、多項式の乗法について基本的な計算ができる。また、2次の乗法公式を理解し、見通しをもって式を展開することができる。 | |
| | 6 | | 3 因数分解(3) 問題(1) | 乗法公式と関連付けながら因数分解の公式を理解し、たすき掛けを含む因数分解ができる。また、見通しをもって式を因数分解することができる。 | |
| | | | 2節 実数 1 実数(2) | 中学校までに学習した数を分類、統合し、実数について理解する。また、絶対値の定義を数直線と関連づけて理解し、絶対値の性質について理解する。 | |
| | | | 2 根号を含む式の計算(2.5) 問題(0.5) 第1回考査 | 平方根の定義を理解し、根号を含む式の計算をすることができる。また、分母の有理化を理解し、分母に根号を含む基本的な分数について有理化したり計算したりすることができる。 | |
| | | | 3節 1次不等式 1 不等式とその性質(1) | 不等式の意味を理解し、等式の性質と関連付けながら不等式の性質を考察することができる。 | |
| | | | 2 1次不等式の解法(1) | 不等式を解くことの意味を理解する。また、不等式の性質をもとに1次不等式を解く方法を考察するとともに、その解を求めることができる。 | |
| | | | 3 不等式の応用(3) 問題(1) 練習問題(1) | 連立不等式を解いたり、1次不等式を日常の事象の問題解決に活用したりすることができる。また、絶対値記号を含む基本的な方程式・不等式を解くことができる。 | |
| | 7 | 2章 集合と論証 [10] | 1節 集合 1 集合(1.5) 問題(0.5) | 集合に関する基本的な概念を理解し、集合と要素の関係や集合どうしの関係について記号や図を用いて適切に表現することができる。また、ド・モルガンの法則を理解し、利用することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査 |
| | | | 2節 命題と論証 1 命題と条件(2) 2 論証(2) 問題(1) 練習問題(1) 第2回考査 | 命題や条件に関する基本的な概念を理解する。また、命題の真偽や条件どうしの関係を、条件が満たすもの全体の集合の包含関係と関連付けて考えることができる。命題の逆・裏・対偶を理解し、対偶を利用した証明法や背理法を用いて簡単な証明をすることができる。 | |

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
|----|----|------------------|---|---|---|
| 前期 | 9 | 3章 2次関数 [26] | 1節 関数とグラフ | 関数についての基本的な概念を理解する。また、定義域が制限された1次関数の最大値・最小値を、グラフを利用して求めることができる。 中学校で学んだ $y=ax^2$ のグラフをもとに、一般の2次関数 $y=ax^2+bx+c$ のグラフを書く方法を考察することができる。 定義域に応じて、2次関数の最大値・最小値を、グラフを利用して求めることができる。また、日常の事象の問題解決に2次関数を活用することができる。 2次関数のグラフについて、与えられた条件を満たす2次関数を求めることができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査 |
| | | | 1 関数(1) 2 2次関数とそのグラフ(5) 3 2次関数の最大・最小(4) 4 2次関数の決定(2) 問題(1) 2節 2次方程式・2次不等式 1 2次方程式の解法(1) 2 2次方程式の実数解の個数(1) 3 2次関数のグラフとx軸の共有点(3) 4 2次不等式(4) 5 2次不等式の応用(2) 問題(1) 練習問題(1) 第3回考査 | | |
| 後期 | 10 | | | 因数分解や解の公式を用いて、2次方程式の解を求めることができる。 2次方程式 $ax^2+bx+c=0$ の実数解の個数と判別式 $D=b^2-4ac$ の符号との関係を理解する。 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数と、判別式Dの符号との関係を理解する。 関数のグラフを利用して不等式を解く方法を理解し、2次不等式を2次関数のグラフを利用して解くことができる。 2次不等式を含む連立不等式を解くことができる。また、2次不等式を日常の事象の問題解決に活用することができる。 | |
| 後期 | 11 | 4章 図形と計量 [19] | 1節 鋭角の三角比 | 鋭角の三角比の意味を三角形の構成要素間の関係に関連付けて理解し、様々な場面に活用することができる。 三角比の相互関係や $90^\circ - A$ の三角比について理解する。 三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、 0° から 180° までの三角比を求める方法を理解する。また、三角比のとり得る値の範囲や直線の傾きと正接の関係について理解する。 拡張した三角比の相互関係や $180^\circ - \theta$ の三角比について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査 |
| | | | 1 直角三角形と三角比(1) 2 三角比の相互関係(2) 問題(1) 2節 三角比の拡張 1 三角比と座標(3) 2 拡張した三角比の相互関係(2) 問題(1) 3節 三角形への応用 1 正弦定理(2) 2 余弦定理(3) 3 三角形の面積(1) 4 空間図形の計量(1) 問題(1) 練習問題(1) 第4回考査 | | |
| | 12 | | | 三角形の辺と角、外接円の半径の間に成り立つ関係を考え、正弦定理を導くことができる。また、三角形の決定条件と関連付けて正弦定理を理解し、利用することができる。 三平方の定理の拡張として、三角形の辺と角の間に成り立つ関係を考え、余弦定理を導くことができる。また、三角形の決定条件と関連付けて余弦定理を理解し、利用することができる。 三角形の面積を、三角比を用いて表す方法を理解する。また、円に内接する四角形の面積を求めることができる。 空間図形の構成要素に着目して、三角比を空間図形の計量に応用することができる。 | |

| 後期 学期 後期 | 5章 データの分析 [13] | 1節 データの散らばりの大きさ | | |
|----------------|-----------------|---|--|---|
| 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
| 1 | | 1 データの分析とグラフ(1) 2 分散と標準偏差(2) 3 分散、標準偏差の性質(1.5) | ヒストグラムや箱ひげ図といったデータを整理する方法について理解し、それらからデータの傾向を把握することができる。 データの散らばり具合を数値で表す方法の考察を通して偏差、分散、標準偏差を理解し、それらの値を求めることができる。また、分散や標準偏差を利用して複数のデータの散らばりの大きさを比較することができる。 変数を変換した際に分散、標準偏差の値がどのように変化するかを考察し、それらの性質を利用することができる。 | ・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査 |
| 2 | | 2節 データの相関 1 散布図と相関関係(2.5) 3節 データの分析の応用 1 データの分析を利用した問題の解決(2.5) 問題(0.5) 4節 仮説検定の考え方 (仮説検定の考え方) (1) 練習問題(1) | 2つの変量の組からなるデータについて、散布図および相関係数を用いて相関関係を捉えることができる。また、外れ値を知り、外れ値の統計量への影響について理解する。 統計的手法を用いた問題解決の枠組みについて知る。また、目的に応じて複数のデータを収集し、適切な統計量やグラフや手法を選択して分析を行い、データの傾向を把握して問題解決に利用することができる。 仮説検定の考え方を理解し、仮説検定の考え方を利用して不確実な事象に関する主張の妥当性について考察することができる。 | |
| 3 | 1章 方程式・式と証明 [7] | 1節 整式の乗法・除法と分数式 1 整式の乗法と因数分解(1) 2 二項定理(2) 3 整式の除法(2) 4 分数式とその計算(1) 問題(1) 第5回考査 | 3次の乗法公式と因数分解の公式について理解する。 二項定理をパスカルの三角形と関連づけて学習し、その応用を通して数学のよさに触れる。 整式の除法では商や余りを求めることができるようにするとともに、与えられた整式と商・余りの関係を理解する。 分数式の約分・通分や分母が2次程度の分数式の四則計算が自由に行える。 | ・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査 |

3 評価の観点

| | |
|----------|---|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・数と式、図形と軽量、2次関数及びデータの分析について、基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に表現・処理したりすることができる。 |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。 ・図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察することができる。 ・社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。 |

| | |
|----------------------|---|
| <p>主体的に学習に取り組む態度</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 |
|----------------------|---|

4 評価の方法

定期考査、小テスト、提出物及び授業への取り組み状況により、上記3観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

まず、授業で行ったところや、教科書の内容を理解する。不明な点は授業担当者や友人に質問するなどして自分なりに解決しておく。次に、知識として定着させる。その単元の教科書の「問題」や副教材の練習問題を数多く解く。単純な問題を数多く練習することも必要である。さらに発展問題にも取り組む。時間をかけて考える習慣を身につけることも大切である。

| | | | |
|-----|---------------------|----------|--------------------|
| 単位数 | 3単位 | 学科・年次・学級 | 普通科 1年次 1～8組 |
| 教科書 | 数学A Advanced (東京書籍) | 副教材等 | PRIME 数学I+A (東京書籍) |

1 学習の到達目標

| |
|--|
| <p>数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身につけるようにする。</p> <p>(2) 図形の構成要素間関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。</p> <p>(3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p> |
|--|

2 学習の計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
|----|----|----------------|--|---|---|
| 前期 | 4 | 1章 場合の数と確率[29] | 0節 集合 1節 場合の数 1 集合の要素の個数(2) 2 樹形図と場合の数(1) 3 順列(4) 4 組合せ(4) 問題(1) 第1回考査 | 集合の要素の個数に関する基本的な関係を理解し、日常の事象の問題解決に活用することができる。 樹形図を用いた数え上げや、和の法則、積の法則という数え上げの原則を理解し、場合の数を求めることができる。 順列の意味を理解し、その総数を求めることができる。また、状況に応じて、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 組合せの意味を理解し、その総数を求めることができる。また、状況に応じて、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・振り返りシート ・定期考査 |
| | 5 | | | | |
| | 6 | | | | |
| 7 | | | | | |
| | 6 | 2章 図形の性質 | 2節 確率とその基本性質 1 事象と確率(2) 2 確率の基本性質(4) 問題(1) 3節 いろいろな確率 1 独立な試行の確率(2) 2 反復試行の確率(2) 3 条件付き確率(3) 4 期待値(2) 問題(1) 練習問題(1) 第2回考査 | 事象という観点から確率を捉え直し、確率の意味を理解する。 確率の基本性質について集合と関連付けながら理解し、性質を利用して確率を求めることができる。 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。また、状況に応じて、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 反復試行の意味を理解し、反復試行の確率を求めることができる。また、状況に応じて、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 条件付き確率の意味と確率の乗法定理について理解し、条件付き確率を求めることができる。また、状況に応じて、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 期待値の意味を理解し、期待値を求めることができる。また、期待値を意思決定に活用することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・振り返りシート ・定期考査 |
| 7 | | | | | |
| 9 | | | | | |
| | 9 | 2章 図形の性質 | 1節 三角形の性質 1 内分・外分と三角形の重心(2) 2 三角形の外心・垂心(3) | 内分や外分について理解する。また、三角形の重心の定理について理解する。 三角形の外心の定理、三角形の垂心の定理について理解する。また、三角形の重心・外心・垂心の関係について、論理的に考察し説明することができる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・振り返りシート ・定期考査 |
| | 10 | | 3 角の二等分線と三角形の内心(2) 4 三角形における比の定理 | 角の二等分線と比の定理について理解する。また、三角形の内心の定理について理解する。 メネラウスの定理、チェバの定理について理解し、論理的に考察し説明することができる。 | |
| 後期 | 10 | | | | |

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
|----|----|-------------|---|---|---|
| 後期 | | | 問題(1) 第3回考査 | | |
| | 11 | | 2節 円の性質 1 円周角の定理とその応用(4) 2 方べきの定理(4) 3 2つの円(1) 4 内分点の作図と平方根の作図(1) 問題(1) | 同一円周上にある点を結んでできる角についての様々な定理を理解し、利用することができる。また、これらの定理の関係について、統合的に考察することができる。接線の長さの定理、方べきの定理とその逆について理解する。 2つの円の位置関係とそれらの共通接線について理解する。 平行線の作図、内分点の作図、平方根の作図について理解する。 | ・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・振り返りシート ・定期考査 |
| | 12 | | 問題(1) 第4回考査 | | |
| | 1 | 3章 数学と人間の活動 | 3節 空間図形 1 直線と平面(3) 2 正四面体(2) 問題(1) 練習問題(1) | 空間における直線と平面の基本的な性質について理解する。また、直線と平面の垂直条件、三垂線の定理について理解する。 正四面体の性質について、論理的に考察し説明することができる。 | ・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・振り返りシート ・定期考査 |
| | 2 | | 1節 生きている数学 1 身近にある数学(6) 2 文化と数学(6) | 日常の事象を数学の考えを用いて考察し、問題解決にそれらを利用することができる。また、平面や空間において点の位置を表す座標の考え方と人間の活動との関わりについて理解する。 歴史的な話題を通して数学と文化との関わりについての理解を深め、数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解したり、目的に応じて考察したりする。 | |
| | 3 | | 2節 考える楽しみ 1 遊びの中の数学(5) 2 整数の世界(8) 練習問題(1) 第5回考査 | パズルやゲームなどに数学的な要素を見いだし、目的に応じて考察することができる。また、数理的なゲームやパズルを通して、数学と文化との関わりについての理解約数や倍数、ユークリッドの互除法、2進法などの整数の性質と人間の活動との関わりについて理解する。また、それらの整数の性質について、関心に基づいて発展させ考察することができる。 | |

3 評価の観点

| | |
|---------------|--|
| 知識・技能 | <ul style="list-style-type: none"> ・図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりすることができる。 |
| 思考・判断・表現 | <ul style="list-style-type: none"> ・図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察することができる。 ・不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。 ・数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察することができる。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | <ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしたり、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 |

4 評価の方法

定期考査、小テスト、提出物及び授業への取り組み状況により、上記3観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

まず、授業で行ったところや教科書の内容を理解する。不明な点は授業担当者や友人に質問するなどして自分なりに解決しておく。次に、知識として定着させる。その単元の教科書の「問題」や副教材の練習問題を数多く解く。単純な問題を数多く練習することも必要である。さらに発展問題にも取り組む。時間をかけて考える習慣を身につけることも大切である。

令和4年度 理科「化学基礎」シラバス

| | | | |
|-----|------------|----------|-----------------|
| 単位数 | 2単位 | 学科・年次・学級 | 普通科・1年次・1～8組 |
| 教科書 | 化学基礎（東京書籍） | 副教材等 | セミナー化学基礎（第一学習社） |

1 学習の到達目標

- 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。
- 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2 学習の計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 | |
|----|-------------------------|--|--|---|--|-----------------------------------|
| 前期 | 4 | 1編 化学と人間生活 1章 化学とは何か 2章 物質の成分と構成元素 2編 物質の構成 1章 原子の構成と元素の周期表 | 1節 物質の成分 ・純物質と混合物 ・混合物の分離 2節 物質の構成元素 ・元素 ・単体と化合物 ・元素の確認 3節 物質の三態 ・粒子の熱運動 ・物質の三態と状態間の変化 ・状態変化と熱運動 1節 原子の構造 ・原子 ・同位体 2節 電子配置 ・原子の電子配置 3節 元素の周期表 ・周期表 | <ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの物や製品が物質でできていることに気づく。 2種類の物質を区別する方法を考え、実際に分離する。 それぞれの物質には性質があり、それを利用して生活していることを理解する。 私たちの生活は、化学の密接に関連していること知る。 身のまわりの物がどのような物質から構成されているかを考える。 純物質と混合物の性質を理解する。 混合物から成分となる物質を分離する方法があることを理解する。 純物質は、単体と化合物に分類されることを理解する。 元素を確認する方法に、炎色反応や沈殿の生成があることを理解する。 物質には三態があり、それぞれの状態を理解する。 拡散と熱運動を理解する。 物質を構成する粒子が原子であることに気づく。 原子の構造から陽子、中性子、電子の性質を理解する。 原子番号は、原子に含まれる陽子の数であることを知る。 電子配置で電子殻への電子の収まり方を知る。 電子配置は原子番号の順に規則正しく変化することを理解する。 | 授業態度、 発問評価、 定期考査、 実験レポート | |
| | 5 | | 第1回考査 | | | |
| | 6 | 2編 物質の構成 2章 化学結合 | 1節 イオンとイオン結合 ・イオンの生成 ・イオンの分類 ・イオン半径 ・イオン結合とイオン結晶 2節 分子と共有結合 ・共有結合と分子の形成 ・配位結合 ・電気陰性度と分子の極性 ・分子結晶 ・共有結合の結晶 3節 金属と金属結合 ・金属結合 4節 化学結合と物質の分類 ・化学結合と物質の分類 | <ul style="list-style-type: none"> 身のまわりの物質は原子やイオンがどのような結びつきでできているかを考える。 電子配置からイオンの生成を理解する。 イオン化エネルギーについて理解する。 同じ電子配置をもつイオンどうしのイオン半径を比較して考える。 イオン結合の形成について理解する。 イオンからなる物質の組成式およびイオン結晶の性質を理解する。 分子は、非金属元素の原子が結びついてできた粒子であることを知る。 共有結合の形成、分子式や構造式について理解する。 配位結合の形成について知る。 電気陰性度と結合の極性を知り、極性分子と無極性分子について理解する。 分子結晶の性質、共有結合の結晶の性質の違いを比較しながら理解する。 金属は、金属元素の原子が規則正しく配列してできた結晶であることを知る。 自由電子のふるまいがわかり、金属結合の仕組みを理解する。 金属の性質について理解する。 結合の種類から物質の大まかな性質について分類し考察する。 周期表の分類と結合の種類との間に、どのような関係性が見られるか考える。 | | 授業態度、 発問評価、 定期考査、 実験レポート |
| 7 | | 第2回考査 | | | | |
| 9 | 3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 | 1節 原子量・分子量・式量 ・原子の相対質量 ・原子量 ・分子量 ・式量 2節 物質量 ・アボガドロ数と物質量 ・1molの気体の体積 | <ul style="list-style-type: none"> 原子1個の質量は極めて小さいため、原子の相対質量とは基準として決められたある原子の質量との比較で求めた相対質量であることを知る。 天然に存在する多くの元素には一定の割合で同位体が存在するため、原子量はその加重平均の値であることを理解する。 原子量、分子量、式量のそれぞれが表す値を理解する。 粒子の数に基づく量の表し方が物質量であることを知る。 物質量と質量・体積の関係を理解する。 物質量を中心とした量的関係を理解する。 | 授業態度、 発問評価、 定期考査、 実験レポート | | |
| 後期 | 10 | 3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式 | 3節 溶液の濃度 ・溶液の濃度 4節 化学反応の表し方 ・化学反応式 ・イオン反応式 5節 化学反応の表す量的関係 ・化学反応の表す量的関係 ・反応物の過不足 | | <ul style="list-style-type: none"> モル濃度による溶液の濃度の表し方を理解する。 質量パーセント濃度とモル濃度の違いを考える。 化学反応式やイオン反応式の書き方やそれが表している内容を理解する。 化学変化に伴う質量変化に注目した化学の基本法則を知る。 化学反応式の係数が表している量的関係を考える。 化学変化に伴う質量変化に注目した化学の基本法則を知る。 | 授業態度、 発問評価、 定期考査、 実験レポート |
| | | 第3回考査 | | | | |

| | | | | | |
|----|----|-----------------------|---|--|-----------------------------------|
| 後期 | 11 | 3編 物質の変化 2章 酸と塩基 | 1節 酸と塩基 ・酸と塩基の性質 ・酸と塩基の定義 ・広い意味の酸・塩基 ・酸と塩基の価数 ・酸と塩基の強弱 2節 水素イオン濃度とpH ・水の電離と水素イオン濃度 ・水素イオン濃度とpH ・pH指示薬とpHの測定 3節 中和反応と塩 ・中和反応と塩の生成 ・塩の種類と塩の水溶液の性質 4節 中和滴定 (4h) ・中和滴定の量的関係 ・中和滴定 ・滴定曲線 | <ul style="list-style-type: none"> 酸と塩基の性質について理解する。実験を通して確認する。 アレキシアスの酸・塩基の定義を理解する。 ブレンステッド・ローリーの酸・塩基の定義を理解する。 酸と塩基の価数を理解し、電離度を比較して酸と塩基の強弱の違いを考察する。 水溶液の酸性・塩基性は、水素イオン濃度の大小で表せることを知る。 pH指示薬と変色域により、水溶液のpHが測定できることを知る。 酸と塩基が完全に中和するときの変化を化学反応式で理解する。 酸と塩基が完全に中和したときの水溶液が、中性になるとは限らないとわかる。 実験観察を通して、塩の水溶液のpHを測定する。その塩をつくるものになった酸、塩基の強弱を比較して考察する。 中和の条件は、酸から生じる水素イオンと塩基から生じる水酸化物イオンの物質量が等しくなることだとわかる。 中和滴定に用いる器具の使い方がわかり、中和滴定の実験操作を理解する。 実験観察を通して基本的な技能から食酢の濃度を求め、得られた結果を分析して中和反応の量的関係を理解する。 滴定曲線と比較し、適切な指示薬の使い分けを理解する。 | 授業態度、 発問評価、 定期考査、 実験レポート |
| | 12 | 第4回考査 | | | |
| | 1 | 3編 物質の変化 3章 酸化還元反応 | 1節 酸化と還元 ・酸化と還元・酸化数 ・酸化還元反応と酸化数 2節 酸化剤と還元剤 (4h) ・酸化剤と還元剤 ・電子の授受と酸化還元反応式 ・酸化剤と還元剤のはたらきの強さ ・酸化剤と還元剤の量的関係 3節 金属の酸化還元反応 ・金属のイオン化傾向 ・金属の反応性 4節 酸化還元反応の応用 (3h) ・電池のしくみ ・実用電池 ・金属の製錬 | <ul style="list-style-type: none"> 酸化と還元は常に同時に起こることを知る。 酸素原子や水素原子が関係していない反応についても、酸化と還元が電子の授受によって統一的に説明できることを理解する。 酸化数は、原子やイオンがどの程度の酸化や還元をされているのかを示す数値であることを理解する。 反応前後の酸化数の増減により、酸化と還元が確認できることを理解する。 代表的な酸化剤、還元剤を知り、それらの水溶液中での反応式を理解する。 酸化還元反応の化学反応式の作ることができ、この反応の量的関係を理解する。 実験観察を通して酸化剤としてはたらく物質は、より強い酸化剤との反応では還元剤となることを知る。 酸化還元滴定に用いる器具の使い方がわかり、実験操作を理解する。 実験観察を通して金属の陽イオンへのなりやすさを比較し、金属の反応性に違いがあることを知る。 金属と空気、水、酸などの反応性の違いは、金属のイオン化傾向と深い関係があることを理解する。 金属のイオン化傾向と電流の流れる向きを比較し関係性を考える。 ダニエル電池のしくみを理解する。 身近に使われている実用電池の構造、それらの用途や特徴を調べて発表する。 金属の製錬には酸化還元反応が関わっていることを知る。 | 授業態度、 発問評価、 定期考査、 実験レポート |
| | 2 | | | | |
| | 3 | | | | |
| | | | 第5回考査 | | |

3 評価の観点

| | |
|---------------|--|
| 知識・技能 | 物質や化学反応についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現 | 自然の事物・現象の中に問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 |

4 評価の方法

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から総合的に判断する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

教科書に書いてあることを教科書の中で完結させず、身近な物質や現象と関連づけて、視野と思考を世界へと向けてください。我々の身の回りの全ての物質は原子からできています。我々自身も原子からできており、その原子は常に入れ替わっています。いま、あなたの目の前にある物質を構成する原子が、明日にはあなたの体を構成しているかもしれません。わくわくしますね。

| | | | |
|-----|------------------|----------|---|
| 単位数 | 2単位 | 学科・年次・学級 | 普通科・1年次・1～8組 |
| 教科書 | プログレス生物基礎（第一学習社） | 副教材等 | スクエア最新図説生物neo（第一学習社） セミナー生物基礎（第一学習社） |

1 学習の到達目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- ・日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

2 学習の計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
|----|---|-----------------|---|---|-----------------------------------|
| 前期 | 4 | 第1章 生物の特徴 | 1. 生物の共通性 ①生物の多様性と共通性 観察1 さまざまな生物を観察して共通する特徴を探そう 実験1 DNAの抽出 ②生物の共通性の由来 資料1 脊椎動物を例に生物が共通する特徴をもつ理由を考えよう | <ul style="list-style-type: none"> ・地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であることを理解する。 ・藻類、菌類、細菌の観察結果から、すべての生物のからだは細胞からなることを見だし、生物が共通にもつ特徴を理解する。 ・身近な材料を用いて、DNAを抽出し、DNAをもつことが生物に共通してみられる特徴であることを確認する。 ・脊椎動物の系統樹から、生物に共通してみられる特徴は、進化の過程で共通祖先から受け継がれてきたものであると考察できる。 ・共通の祖先が長い年月の間に変化して、生物が多様化したことを理解する。 ・原核細胞と真核細胞でそれぞれみられる特徴を理解する。また、真核細胞において、核・細胞膜・細胞質基質・ミトコンドリア・葉緑体・液胞・細胞壁の機能の概要を理解する。 ・現生生物の共通祖先について、推測される特徴を理解する。 | 授業態度、 発問評価、 定期考査、 実験レポート |
| | 5 | | 2. 生物とエネルギー ①生物とエネルギー 資料2 光の有無が植物の生育に与える影響について考えよう ②代謝とATP 資料3 ATPの役割について考えよう ③代謝と酵素 実験2 酵素カタラーゼの働き 第1回考査 | | |
| | 6 | 第2章 遺伝子とその働き | 1. 遺伝子の本体と構造 ①遺伝情報とDNA 資料4 DNAの塩基どうしの結合にみられる特徴について考えよう 演習1 DNAの分子モデルを作製してみよう ②DNAの複製と分配 資料5 DNAの複製のしくみを考えよう 演習2 DNAの半保存的複製を再現してみよう 観察2 細胞周期の各時期にかかる時間の推定 | <ul style="list-style-type: none"> ・遺伝子とDNAと染色体の関係について理解する。 ・DNAの塩基の相補的な結合を示した資料から、DNAの構造の特徴を見だし、DNAの基本的な構造を理解する。 ・DNA分子の特徴をもとにDNAの分子モデルを作製することができる。 ・DNAの複製の概要を示した資料から、塩基の相補性にもとづいてDNAが複製されていることに気づき、半保存的複製を理解する。 ・DNAの半保存的複製を、分子モデルを用いて再現できる。 ・多細胞生物では、一部の細胞が分裂して増殖していること、分裂している細胞には細胞周期がみられることを理解する。 ・間期の間にDNAが複製され、細胞分裂を通じて均等に分配されることで、細胞分裂の前後で遺伝情報の同一性が保たれることを理解する。 ・細胞の分裂の各過程で起こる現象を理解する。 ・タマネギの根端を用いて、細胞分裂の各段階を観察する。また、結果から、細胞周期の各時期にかかる時間を推測できる。 | 授業態度、 発問評価、 定期考査、 実験レポート |
| | 7 | | 2. 遺伝情報とタンパク質 ①遺伝情報とタンパク質 資料6 DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列の関係を考えよう ②転写と翻訳 演習3 mRNAが指定するアミノ酸配列を読み取ってみよう ③遺伝子とゲノム 観察3 だ腺染色体の観察 第2回考査 | | |

| | | | | | |
|----|----|----------------------|--|---|-----------------------------------|
| | 9 | 第3章 ヒトのからだ の調節 | 1. 情報の伝達と体内環境の維持 ①恒常性と神経系 実験3 踏み台昇降運動を行って、心拍数の変化を測定しよう ②恒常性と内分泌系 | <ul style="list-style-type: none"> ・恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 ・運動前後の心拍数の変化を測定する実験から、からだには体内環境の変化を情報として伝達するしくみがあることを見だし、体内における情報の伝達の概要を理解する。 ・脳幹の働きと、脳死がどのような状態であるのかについて理解する。 ・自律神経系には交感神経と副交感神経があり、これらが拮抗的に働くことによって体内環境を調節していることを理解する。 ・心臓の拍動数が意思とは無関係に調節されていることを理解する。 ・内分泌系による体内環境の調節の特徴について理解する。 | 授業態度、 発問評価、 定期考査、 実験レポート |
| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
| 後期 | 10 | 第3章 ヒトのからだ の調節 | ③体内環境を調節するしくみ 資料7 血糖濃度とホルモン濃度の関係を考察しよう 資料8 血糖濃度の調節と自律神経系の関わりについて考えよう ④血液凝固 | <ul style="list-style-type: none"> ・ホルモン分泌のフィードバック調節について、チロキシン分泌調節を例に理解する。 ・健康なヒトとインスリンを正常に分泌できないヒトについて、食事の前後の血糖濃度とインスリン濃度の経時的変化を示す資料から、インスリンの働きを考察し、理解する。 ・血糖濃度調節の流れを示した資料から、血糖濃度と自律神経系の関わりについて気づき、血糖濃度調節のしくみについて理解する。 ・糖尿病の原因と症状について理解する。また、糖尿病で尿中にグルコースが排出される原因を理解する。 ・体温調節のしくみについて理解する。 ・血液凝固のしくみと体内環境の維持との関係について理解する。 | 授業態度、 発問評価、 定期考査、 実験レポート |
| | | | 第3回考査 | | |
| 後期 | 11 | 第4章 植生と遷移 | 2. 免疫 ①生体防御 資料9 白血球の働きについて考えよう 観察4 食作用の観察 ②自然免疫 ③獲得免疫 資料10 同じ感染症にかかりにくい理由を抗体産生量の変化から考えよう 演習4 免疫の流れを説明してみよう ④自然免疫と獲得免疫の特徴 ⑤免疫と生活 | <ul style="list-style-type: none"> ・皮膚や粘膜による生体防御について理解する。 ・好中球の存在下における細菌数の減少を示した資料や、好中球が細菌を取り込むようすを撮影した資料から、白血球が体内でどのような働きをしているかに気づき、白血球の役割について理解を深める。 ・カイコガを用いて血球の食作用を観察する。 ・免疫を担う細胞や器官の種類と働きを概観する。 ・自然免疫のしくみを理解する。 ・抗体の特徴について理解する。 ・リンパ球による抗原認識、免疫寛容のしくみを理解する。 ・獲得免疫は自然免疫によって誘導されることを理解する。 ・獲得免疫による病原体排除の流れを理解する。 ・一次応答と二次応答における抗体産生量の変化を示した資料をもとに、同じ感染症にかかりにくい理由を考察する。 ・二次応答や拒絶反応が起こるしくみを理解する。 ・免疫反応について、免疫細胞のコマを用いて、流れを整理しながら説明できる。 ・自然免疫と獲得免疫の特徴を理解し、お互いに活性化し合って病原体を排除することを理解する。 ・アレルギーや自己免疫疾患、エイズなど身近な免疫に関する疾患の生じるしくみを理解する。免疫のしくみを用いている予防接種や血清療法をしくみを理解する。また、近年では抗体医薬が用いられていることを理解する。 | |
| | 12 | | 1. 植生と遷移 ①植生と環境の関わり 観察5 植生と光・土壌の関係を調べよう 観察6 陽葉と陰葉の断面の観察 ②遷移のしくみ 資料11 伊豆大島の調査結果から遷移の要因を考察しよう | <ul style="list-style-type: none"> ・植生は、相観によって森林・草原・荒原に大別されることを理解する。 ・植生ごとに環境を比較する観察から、植生が異なると光や土壌環境も異なり、植生と環境は密接な関係にあることに気づく。 ・森林の土壌の特徴を理解する。 ・森林には階層構造がみられ、階層によって光などの環境が異なることを理解する。 ・光の強さと光合成速度の関係を、グラフを通じて理解する。 ・陽生植物、陰生植物の光合成速度の特徴を理解する。 ・陽葉と陰葉の断面を観察・比較し、構造の違いと光環境との関係を考察する。 ・植生は不変ではなく、遷移していることを理解する。 ・伊豆大島で行われた、溶岩の噴出年代が異なる地点の植生・環境調査の結果をもとに、遷移の進む要因を考察する。 ・乾性遷移のモデルについて、土壌の形成や光環境の変化などの環境形成作用に注目して理解する。 ・極相林にはさまざまな大きさのギャップが存在し、その大きさによってギャップを埋める樹種が変わることがあることを理解する。 ・湿性遷移、二次遷移について理解する。 | 授業態度、 発問評価、 定期考査、 実験レポート |
| | | | 第4回考査 | | |

| | | | | |
|---|---------------------|---|---|-----------------------------------|
| 1 | 第5章 生態系とその 保全 | 2. バイオーム ①遷移とバイオーム 資料12 バイオームの分布を決める要因 について考えよう(1) 資料13 バイオームの分布を決める要因 について考えよう(2) | <ul style="list-style-type: none"> ・バイオームの概念を理解し、陸上にはその地域に生育する植物を基盤としたさまざまなバイオームが成立することを理解する。 ・現存するバイオームと、その地域における気温や降水量の分布を対応させた資料から、環境条件によって、遷移の結果として森林や草原、荒原など多様なバイオームがみられることを理解する。 ・地球上には、それぞれの場所に適応した植物が生育し、いろいろなバイオームが成立していることを理解する。 ・日本におけるバイオームの水平分布と垂直分布を理解し、各バイオームの特徴的な植物種を理解する。 | 授業態度、 発問評価、 定期考査、 実験レポート |
| | | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・生態系の構成について理解する。 ・土壌生態系を構成する生物の観察から、身近な環境でみられる生物の種の多様性に気づく。また、異なる環境でみられる土壌生態系の観察から、生態系の種の多様性や個体数は環境と密接に関係していることを理解する。 ・地球上には、陸上以外にもさまざまな生態系がみられることを理解する。 ・生物は、食物連鎖（食物網）によってつながっていることを理解する。 ・上位の栄養段階の生物を排除したときの、下位の生物の種数や生息密度の変化を示した資料から、捕食-被食の関係が種の多様性に与える影響について考察する。 ・キーストーン種によって生態系のバランスが保たれている場合があることを理解する。 ・食物連鎖を通じて間接的に他の生物に影響を与えることがあることを理解する。 | |
| | | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・生物の個体数や量は、常に一定の範囲内で変動しながらバランスが保たれていることを理解する。 ・河川に生活排水が流入した際にみられる自然浄化のようすを示した資料をもとに、生態系では多様な生物と環境が関係しあいながらバランスを保っていることを理解する。 ・生態系には復元力があるが、復元力を超えるような攪乱が起こった場合には、以前とは異なる状態に移行することを理解する。 ・人間活動が生態系にさまざまな影響を与えていることを理解する。 ・人間活動に伴う二酸化炭素の排出が原因と考えられている、地球温暖化について理解する。 ・琵琶湖においてオオクチバスが在来種に与える影響を調べ、外来生物が、侵入した生態系に与える影響について考察する。 ・自然に対する人間の働きかけの縮小が里山などの生態系へ与える影響について理解する。 ・開発による生態系への影響と、生息地の分断による影響を軽減する取り組みや、環境アセスメントの必要性について理解する。 ・絶滅危惧種と人間活動との関係について理解する。 ・絶滅危惧種に対する具体的な保全の取り組みについて理解する。 人間は、生態系からさまざまな恩恵を受けており、それを受け続けるためには生態系を保全する必要があることを理解する。 | |

第5回考査

3 評価の観点

| | |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 生物や生物現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現 | 自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を身に付けている。 |

4 評価の方法

「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から総合的に判断する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

- ・授業中は授業に集中しましょう。授業は板書された内容をノートに写し取るだけの時間ではありません。絶えず好奇心を持ちつつ必要な口頭説明はメモを取りながら授業を受けましょう。そして、分からないところや疑問に思うところがあったらいつでも質問して下さい。
- ・知識の定着には演習が必要で予考査前など集中して取り組んで下さい。
- ・興味を持った事柄については自ら進んで調べ、教科書の内容にとらわれず学習を進めて下さい。

| | | | |
|-----|---------------|----------|----------------|
| 単位数 | 3単位 | 学科・年次・学級 | 1年次普通科 |
| 教科書 | 現代高等保健体育（大修館） | 副教材等 | アクティブスポーツ（大修館） |

1 学習の到達目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習 過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けることができる。
- (2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養うことができる。
- (3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養うことができる。

2 学習の計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
|----|--------|-------------------------|--|--|--|
| 前期 | 4 5 | A体づくり運動 H体育理論 | A体ほぐしの運動 H体育理論 | 体づくり運動 ・ 定期的・計画的に運動を継続することは、心身の健康、健康や体力の保持増進につなげる意義があることを理解する。 ・ 運動を安全に行うには、関節への負荷がかかりすぎないようにすることや軽い運動から始めるなど、徐々に筋肉を温めてから行うことを理解する。 ・ のびのびとした動作で用具などを用いた運動。 ・ リズムに乗って心が弾むような運動。 | 行動観察 ワークシート分析 スキルテスト 記録計測 |
| | 6 7 | E球技 F武道の選択 | バスケットボール、サッカー、バレーボール、バドミントン、卓球、ソフトボール 柔道、剣道 | 体育理論 ・ スポーツは、人類の歴史とともに始まり、その理念が時代に応じて多様に変容してきていること。また、我が国から世界に普及し、発展しているスポーツがあること。 球技、武道、ダンスの選択 ※球技選択は年間で2以上の型を選択し、同じ種目を選択できない。 ・ ゴール型・ネット型・ベースボール型・武道 ※球技・武道・の学習内容と学習活動は後述 | |
| | 9 | C陸上競技 D水泳 Gダンスの選択 | 短距離走、ハードル走、走り幅跳び、砲丸投げ 水泳、ダンス | C陸上競技、D水泳、Gダンスの選択 水泳 自己に適した泳法を身に付け、その効率を高めて、泳ぐことができる。 ・ プルとキックのタイミングに合わせて呼吸を行いローリングをしながら、伸びのある泳ぎをする。 ・ プルとキックのタイミングに合わせて呼吸1回ごとに大きな伸びのある泳ぎができる。 ・ これまで学習したクロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライの4種目から2～3種目を選択し、続けて泳ぐことができる。 ・ 選択した泳法について、自己の改善すべきポイントを見付けることができる。 ・ 健康や安全を確保するために、体調に応じて適切な練習方法を選ぶことができる。 ※陸上競技・ダンスの学習内容と学習活動は後述 | 行動観察 スキルテスト 記録測定 |

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
|----|-------------|---|---|---|--|
| 後期 | 10 | E球技 F武道の選択 H体育理論 | バスケットボール サッカー、バレーボール バドミントン、卓球 ソフトボール 柔道、剣道 H体育理論 | 球技、武道、ダンスの選択 ※球技選択は年間で2以上の型を選択し、同じ種目を選択できない。 ・ゴール型・ネット型・ベースボール型・武道 ※球技・武道・の学習内容と学習活動は後述 ・現代のスポーツは、オリンピックやパラリンピック等の国際大会を通して、国際親善や世界平和に大きな役割を果たし、共生社会の実現にも寄与していること。 | 行動観察 ワークシート分析 スキルテスト 記録計測 |
| | 11 | | | | |
| 12 | | | | | |
| 後期 | 1 2 3 | C陸上競技 H体育理論 E球技 F武道の選択 | 長距離走、ハードル走 走り幅跳び、砲丸投げ H体育理論 バスケットボール サッカー、バレーボール バドミントン、卓球 ソフトボール | 長距離走 ・リズムカルに腕を振り、カミのないフォームで軽快に走る。 ・呼吸を楽にしたり、走りのリズムを作ったりする呼吸法を取り入れて走る。 ・自己の体力や技能の程度 に合ったペースを維持して走る。 体育理論 ・現代のスポーツは、経済的な波及効果があり、スポーツ産業が経済の中で大きな影響を及ぼしていること。また、スポーツの経済的な波及効果が高まるにつれ、スポーツの高潔さなどが一層求められること。 ・スポーツを行う際は、スポーツが環境や社会にもたらす影響を考慮し、多様性への理解や持続可能な社会の実現に寄与する責任ある行動が求められること。 球技の選択 ※球技選択は年間で2以上の型を選択し、同じ種目を選択できない。 ・ゴール型・ネット型・ベースボール型 ※陸上競技・球技の学習内容と学習活動は後述 | 行動観察 ワークシート分析 スキルテスト 記録計測 |

| 学習内容や学習活動 | |
|--|--|
| <p>○陸上競技（ハードル走・走り幅跳び・走り高跳び・砲丸投げ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターバルでは、3又は5歩のリズムを最後のハードルまで維持して走ること。 ・踏み切り前3～4歩からリズムアップして踏み切りに移ること。 ・リズムカルな助走から真上に伸び上がるように踏み切り、はさみ跳びや背面跳びなどの空間動作で跳ぶこと。 ・砲丸を投げ手の中指付け根あたりに乗せて保持し、首につけた姿勢をとること。 <p>○ゴール型（バスケットボール・サッカー）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゴールの枠内にシュートをコントロールしたり、味方が操作しやすいパスを送ったりする。 ・パスを出した後に次のパスを受ける動きをしたり、ゴール前の空いている場所をカバーしたりする。 <p>○ネット型（バレーボール・バドミントン・卓球）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サービスでは、ボールをねらった場所に打ったり、相手側のコートの中空いた場所やねらった場所に打ち返す。 ・ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすること。 <p>○ベースボール型（ソフトボール）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイミングを合わせてボールを捉えること。 ・スピードを落とさずに円を描くように塁間を走ること。 ・ねらった方向へステップを踏みながら、一連の動きでボールを投げること。 <p>○武道</p> <p>（剣道）相手の動きの変化に応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手の構えを崩し、しかけたり応じたりするなどの攻防を展開することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・構えでは、相手の動きの変化に応じた自然体で中段に構える。 ・体さばきでは、相手の動きの変化に応じて体の移動や竹刀操作を行う。 ・最初の面打ちに相手に対応して隙ができたとき、胴を打つ。 <p>（柔道）相手の動きの変化に応じて行う姿勢と組み方、進退動作崩しと体さばき、受け身から基本となる技、得意技や連絡技を用いて攻防を展開することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の投げ技に応じて横受け身、後ろ受け身、前回り受け身をとること。 ・取は相手の動きの変化に応じながら、けさ固め、横四方固め、上四方固めの連絡を行うこと。 ・受はけさ固め、横四方固め、上四方固めで抑えられた状態から、相手の動きの変化に応じながら、相手を体側や頭方向に返すことによって逃げること。 <p>○ダンス（現代的なリズムのダンス）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単なリズムの取り方や動きで、音楽のリズムに同調したり、体幹部を中心としたシンプルに弾む動きをしたりして自由に踊ること。 ・軽快なロックでは、全身でビートに合わせて弾んだり、ビートのきいたヒップホップでは膝の上下に合わせて腕を動かしたりストップするようにしたりして踊ること。 | |

3 評価の観点

| | |
|---------------|--|
| 知識・技能 | 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解しているとともに、それらの技能を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現 | 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康・安全を確保している。 |

4 評価の方法

| |
|---|
| 「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から、総合的に評価する。 |
|---|

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

| |
|--|
| <p>規律・マナーを守り、怪我なく学習することが大切です。また楽しく運動することが一番です。新しい環境や新しい仲間の中で不安もあるでしょうが、一日も早く打ち解けて規律を守り、怪我なく、楽しく運動しましょう。ただ、体を動かすだけでなく、生涯を通じて運動に親しむことができるようにし、運動の仕方はもちろんのこと練習や発表の仕方、企画運営の仕方など基本的な事項も身に付けることができるように授業を行います。自分と仲間の持つ課題を見つけようとする意欲も必要です。自分自身のことはもちろん、仲間の気持ちや体の状態に目を向け、問題点や解決方法を見つけ課題解決をしていきましょう。豊かなスポーツライフを継続するために理論についても学んでいきます。服装は学校指定の体操服に記名をし、着用してください。またこまめに洗濯し、衛生面に気をつけてください。授業はチャイムと同時に始まりますので、活動場所への移動は休み時間のうちに完了させて下さい。見学者は授業前に担当者に申し出て指示を受けて下さい。また貴重品の管理をしっかりと行って下さい。</p> |
|--|

| | | | |
|-----|---------------|----------|------------------|
| 単位数 | 1単位 | 学科・年次・学級 | 1年次普通科 |
| 教科書 | 現代高等保健体育（大修館） | 副教材等 | 現代高等保健体育ノート（大修館） |

1 学習の到達目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けることができる。

(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養うことができる。

(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養うことができる。

2 学習の計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
|----------|----|---|--|--|-------------------------|
| 前期 | 4 | 1単元 現代社会と健康 | 健康の考え方と成り立ち | ・現代社会と健康について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができる。 | 保健体育ノート レポート 定期考査 |
| | 5 | | 私たちの健康のすがた | ・現代社会と健康における事象や情報などについて、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見することができる。 | |
| | | | 生活習慣病の予防と回復 | ・国民の健康課題について、我が国の健康水準の向上や疾病構造の変化に関するデータや資料に基づいて分析し、生活の質の向上に向けた課題解決の方法をヘルスプロモーションの考え方を踏まえて整理することができる。 | |
| | 6 | 7 | がんの原因と予防 | ・がんの種類や原因について説明できる。 | |
| がんの治療と回復 | | | ・がん検診の普及や情報サービスの整備などの社会的な対策について説明できる。 | | |
| 7 | 9 | 運動と健康 | ・健康と運動の関係について説明できる。 | 保健体育ノート レポート | |
| | | 食事と健康 | ・食事と健康の関係について説明できる。 | | |
| 7 | 9 | 休養・睡眠と健康 | ・健康的な食事のとり方について説明できる。 | 保健体育ノート レポート | |
| | | 第2回考査 | ・健康と休養の関係及び適切な休養のとり方について説明できる。 | | |
| 7 | 9 | 喫煙と健康 | ・喫煙者やその周囲の人に起こる害について説明できる。 | 保健体育ノート レポート | |
| | | 飲酒と健康 | ・喫煙対策について、個人と社会に分けて例をあげて説明できる。 | | |
| 7 | 9 | 飲酒による健康への短期的影響と長期的影響を説明できる。 | ・飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげて説明できる。 | 保健体育ノート レポート | |
| | | 飲酒による健康問題に対する個人や社会環境への対策について例をあげて説明できる。 | | | |
| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
| 後期 | 10 | | 薬物乱用と健康 | ・生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組や社会的な対策を整理することができる。 | |
| | | | 精神疾患の特徴 | ・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価することができる。 | |
| | | | 精神疾患の予防 | | |
| | | | 精神疾患からの回復 | | |

| | | | | |
|----|----|--|--|-------------------------|
| 後期 | 11 | 現代の感染症 感染症の予防 性感染症・エイズとその予防 健康に関する意思決定・行動選択 | <ul style="list-style-type: none"> ・精神疾患の予防と回復について、習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理することができる。 ・現代社会と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明することができる。 | 保健体育ノート レポート 定期考査 |
| | 12 | 健康に関する環境づくり 第4回考査 | | |
| | 1 | 2単元 安全な社会生活 | <p>安全な社会生活について、自他や社会の課題を発見し、その解決を目指した活動を通して、次の事項を身に付けることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な社会生活における事象や情報などについて、安全に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見することができる。 ・安全な社会づくりについて、様々な事故や災害の事例から、安全に関する情報を整理し、環境の整備に応用することができる。 ・交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価することができる。 ・応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用することができる。 ・安全な社会生活について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、筋道を立てて説明することができる。 | 保健体育ノート レポート |
| | 2 | 事故の現状と発生要因 安全な社会の形成 交通における安全 | | |
| | 3 | 応急手当の意義とその基本 日常的な応急手当 心肺蘇生法 | | |

3 評価の観点

| | |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。 |
| 思考・判断・表現 | 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。 |

4 評価の方法

「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

少子化や情報化など社会の急激な変化による育成環境、生活行動の変化、国民の疾病構造の変化に関わって深刻化している心の健康、食生活、生活習慣、薬物乱用、生に関する問題について学んでいきます。自分自身はもちろん、家族や仲間などの健康課題についても目を向け、考え、心身の健康の保持増進を図るため、課題解決していけるよう取り組みましょう。

健康であることは、生きるための基本です。学習する全ての単元が重要です。また身体の成長速度や運動能力など個人差があることを踏まえた上で授業に参加して下さい。

令和4年度 芸術「音楽Ⅰ」シラバス

| | | | |
|-----|-----------------|----------|------------------|
| 単位数 | 2単位 | 学科・年次・学級 | 普通科 1年次 1～8組 選択者 |
| 教科書 | 高校生の音楽1 (教育芸術社) | 副教材等 | なし |

1 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2 学習の計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
|----|----|--|------|---|---------------------------------|
| 前期 | 4 | ガイダンス 発声練習 (校歌) | 歌唱 | 音楽Ⅰの学習内容、評価方法等について理解する。 頭声を使った発声を目指す。 | 実技 (知・技) |
| | 5 | 〈クラッピングカルテット 第1番〉 | 器楽 | 構成上の特徴を理解し、自己のイメージをもって音色豊かに表現する。 | 実技 (知・技) (思・判・表) (主) |
| | | 楽典① (音符と休符、用語と記号) | 楽典 | 基礎的な楽典を学習し、表現活動に生かす。 | 筆記試験 (知) |
| 前期 | 6 | 「O sole mio」 「Caro mio ben」 | 歌唱 | 頭声を使った発声を目指す。 階名唱で音程とリズムを把握する。 | 実技 (知・技) (思・判・表) (主) |
| | 7 | 「Heidenröslein」(ヴェルナー) 「Heidenröslein」(シュペーベルト) | | 各楽曲とも原語で歌唱し、発音の特徴や、言葉とリズム、旋律との関わりを理解して表現する。 楽譜に忠実な表現をする。(強弱記号やスラーなど) | |
| | 9 | 連作歌曲集《冬の旅》から〈菩提樹〉 | 鑑賞 | 曲想や表現上の効果と、音楽の構造との関わりについて理解する。 | ワークシートへの取り組み (知) (思・判・表) (主) |
| 後期 | 10 | 連作歌曲集《冬の旅》から〈菩提樹〉 | 歌唱 | 前期最後に鑑賞した楽曲を歌唱する。 鑑賞を通して聴き取ったことや感じ取ったことを、歌唱表現に生かす。 | 実技 (知・技) (思・判・表) |

| | | | | | |
|----|-------------|--|----|--|---------------------------|
| 後期 | 11 | 楽典②（記譜法，音程） | 楽典 | 基礎的な楽典を学習し，表現活動に生かす。 | 筆記試験（知） |
| | 12 | ハンドベル演奏 〈きよしこの夜〉〈ジングルベル〉〈星に願いを〉〈もろびとこぞりて〉 | 器楽 | 互いの音をよく聴き，他者との調和を意識してアンサンブルをする。 | 実技（知・技） （思・判・表） （主） |
| | 1 2 3 | 「荒城の月」 「われは海の子」 「ふるさと」 | 歌唱 | 詩が表現する情景を理解し，重なり合う声の響きや表現の豊かさを感じながら歌う。 | 実技（知・技）（思・判・表）（主） |

3 評価の観点

| | |
|---------------|---|
| 知識・技能 | 自己のイメージをもち，創造的な表現をするための技能を身に付けている。多様な音楽を理解し，そのよさや美しさを創造的に味わう。 |
| 思考・判断・表現 | 感性を働かせて，音楽の諸要素を知覚し，音楽のよさや美しさを感じ取り，創造的な音楽活動の工夫 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 音楽を愛好し，音や音楽に関心をもち，意欲的，主体的に音楽活動を行い，その喜びを味わおうとす |

4 評価の方法

| |
|--|
| 知識・技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度の3観点から総合的に評価する。 |
|--|

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

| |
|--|
| 広い視野で音楽を捉え，柔らかい心で音楽に接し，様々な体験や表現が出来るよう豊かな音楽活動に心掛けて欲しい。何事においても積極的に取り組み，他の人との協調を大切にすること。また，実技を伴う教科なので，常に集中して取り組むこと。 |
|--|

令和4年度 芸術「美術I」シラバス

| | | | |
|-----|-----------------|----------|------------------|
| 単位数 | 2単位 | 学科・年次・学級 | 普通科 1年次 1～8組 選択者 |
| 教科書 | 高校生の美術1（日本文教出版） | 副教材等 | なし |

1 学習の到達目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。

(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。

(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

2 学習の計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
|----|----|----------|-----------|---|---|
| 前期 | 4 | ガイダンス | | 美術Iの学習内容、評価方法等について理解する。 | |
| | 5 | 美術って何だろう | 芸術学 | 美術について自分との関わりを考えながら、理解を深めていく。 | ワークシート、発言 (思・判・表) (主) |
| | | デッサン | デッサン | 形体、色彩、構図、質感、空間などに注意して、造形要素等についての理解を深め、創意工夫する。 | 作品(知・技) (思・判・表) |
| | | デッサンの鑑賞 | 鑑賞 | 自分の観察力や表現力に対して講評を受け、更に発展的な表現の幅を広げる。 他者の作品から、作者の感じ取ったことや意図、表現の工夫などを感じ取り、鑑賞ワークシートにまとめる。 | 制作ワークシート、 発言、自己評価 (思・判・表) (主) 鑑賞レポート (思・判・表) |
| | 6 | 美術史を学ぼう① | 美術史 | 美術史上から作品を取り上げ、作品の背景や作品制作と関連させながらレポートを作成する。(西洋美術) | 美術史レポート (思・判・表) |
| | 7 | 現代アート | 鑑賞 | 作品を鑑賞を行う。(現代アート) 現代アート作品の鑑賞を通して現代アートについての理解を深める。 | 鑑賞ワークシート (思・判・表) |
| | 9 | 美術史を学ぼう② | 美術史 | 美術史上から作品を取り上げ、作品の背景や作品制作と関連させながらレポートを作成する。(日本美術) | 美術史レポート (思・判・表) |
| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
| 後期 | 10 | 作品制作① | 絵画 油彩画 | 油彩画の表現形式のよさや効果などを理解し、その特性を生かす。そのために、光や陰影、面等を把握して形体を表現する。 形体、色彩、構成などの造形要素等の働きを総合的に考え、単純化や強調、構図、配色・混色やマチエールなどの工夫によって生まれる感情や美しさなどの表現効果を生かす。 | 作品(知・技) (思・判・表) |
| | 11 | | | 油彩画の表現の多様性について画家の作品を鑑賞し、描き方を調べ、自分らしい表現の参考にする。 不慣れな油絵の具を試行錯誤したり創意工夫したりして構想を深められるようにする。 油絵の具やキャンバス、木炭などの画材の特性、筆などの用具の使用 い方について体験的に理解を深め、構想を確かめながら材料や用具を工夫して表現する。 | |

| | | | | |
|----|----------|--------------|---|--|
| 12 | 作品鑑賞① | 鑑賞 | 他者の作品から、作者の感じ取ったことや意図、表現の工夫などを感じ取り、鑑賞ワークシートにまとめる。 | 鑑賞レポート (思・判・表) |
| | アールブリュット | 鑑賞 | 作品鑑賞を行う。(アールブリュット)アールブリュット作品の鑑賞を通してアールブリュットについての理解を深める | 鑑賞ワークシート (思・判・表) |
| 1 | 作品制作② | デザイン 色彩構成 | 自分の観察力や表現力に対して講評を受け、更に創意工夫ができるようにする。 | 作品(知・技) (思・判・表) |
| 2 | | | 目的や条件を考え装飾する能力、形や色彩を使ったビジュアルな表現方法により作品を制作する。 | 制作ワークシート、 発言、自己評価 (思・判・表) (主) |
| 3 | 作品鑑賞② | 鑑賞 | 色彩感覚や構成力、想像力などを総合的に働かせて、形や色彩、材料などの効果を生かし、造形的に美しく構成し表現する。 他者の作品から、作者の感じ取ったことや意図、表現の工夫などを感じ取り、鑑賞ワークシートにまとめる。 | 鑑賞レポート (思・判・表) |

3 評価の観点

| | |
|---------------|--|
| 知識・技能 | 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。 |
| 思考・判断・表現 | 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。 |

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度の3観点から総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

- ・1年間の美術学習の中で、基礎的なものの見方や表現方法について学びます。自分自身を題材にすることにより、自分の内面を見つめ、表現の楽しさや完成の喜びを味わってください。・日ごろから自分自身の生き方についてよく考え、自分の外面ばかりでなく、内面を見つめることが大切です。
- ・用具の正しい使い方を身に付け、様々な技法によって自己を表現しようとする姿勢が大事です。
- ・作品の制作以外に、個々の作品を用いて作品鑑賞を実施します。美術の幅広い制作活動と併せて美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てていきます。
- ・授業は美術室で行いますので、速やかに移動し、チャイムと同時に始められるようにしてください。
- ・自分で用意すべき用具や材料は、しっかり準備し、他人のものは使わないようにしてください。使用した用具の後始末をきちんと行ってください。
- ・作品の提出は期限を厳守してください。

令和4年度 芸術「書道Ⅰ」シラバス

| | | | |
|-----|----------|----------|------------------|
| 単位数 | 2単位 | 学科・年次・学級 | 普通科 1年次 1～8組 選択者 |
| 教科書 | 東京書籍 書道Ⅰ | 副教材等 | なし |

1 学習の到達目標

書道における幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てる。表現及び鑑賞を通して、楽しく書に主わり小・中学校で育成された書写能力を高めるとともに、様々な場面に対応できる書写能力を高め、書表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばす。

2 学習の計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
|----|----|---------|--|---|--|
| 前期 | 4 | 書写から書道へ | 書写と書道の違い | 書写と書道の共通性と相違を学ぶ。 | 観察（主） |
| | 5 | | 用具・用材 姿勢・執筆法 色々な線のつながりによる表現の広がり | 用具・用材の種類を学ぶ。 姿勢や執筆法を理解する。 起筆の違いからくる表現の違いを学ぶ。 | 観察（主） 観察（主） |
| | 6 | 漢字の書 | 漢字の導入 楷書の完成と初唐の四大家 楷書の比較 古典による臨書学習 臨書と鑑賞 1. 九成宮醴泉銘 2. 孔子廟堂碑 3. 雁塔聖教序 | 漢字の書体の変遷・古典の意義について学ぶ。 各古典の表現の違いを理解し、その特徴を時代と人物を通して鑑賞する。 各古典には特徴があることを学ぶ。 唐の4大家の古典を臨書し、基本的な点画・線質・用筆法・字形を学ぶ。 | 観察（主） ワークシート（主） ワークシート（主） 発表（主） 試書（思・判・表） 作品（知・技） |
| | 7 | | 楷書による半紙5文字の創作（初唐の3大家風） 4. 自書告身 | 楷書の古典作品の特徴をとらえ創作する。 グループにわかれ特徴を出し合いながら創作をする。 | 作品（知・技） 観察（主） 作品（知・技） |
| | 9 | 行書の書 | 行書の特徴 古典による臨書学習 | 楷書と比較し行書の特徴を理解する。 行書の古典学習により、行書の特徴をより理解し用筆法・運筆法を学ぶ。 | 観察（主） 観察（主） 作品（知・技） |
| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
| 後期 | 10 | 行書の書 | 臨書と鑑賞 蘭亭序 チャレンジ 小筆による臨書学習 蘭亭序 | 小筆で臨書することで、細部にまで意識することを学ぶ。 | 作品（知・技） 観察（主） |

| | | | | | |
|----|----|------------|---|--|---|
| 後期 | 11 | 行書の書 篆刻 | 行書による創作 篆刻 | 蘭亭序の書風を使い創作する。 篆刻の手順を学ぶ。 | 自作手本制作（主） 作品（知・技） |
| | 12 | | | | |
| | 1 | 仮名の書 | 仮名の成立 平仮名の単体 連綿 | 仮名の成立と変遷について学ぶ。 仮名独特の基本用筆を理解する。 仮名の基本用筆やリズムを生かし、単体を学ぶ。 仮名の美に必要な不可欠な連綿について学ぶ。 | ワークシート（主） 試書（思・判・表） 作品（知・技） 試書（思・判・表） 作品（知・技） |
| | 2 | 漢字仮名交じりの書 | 古典による臨書学習 臨書と鑑賞 高野切第三種 線質の調和による表現 用具・用材による表現 紙面構成による表現 | 高野切三種を学ぶことにより仮名の用筆・連綿などをより深く学ぶ。 漢字と仮名を調和して書くことを学ぶ。 墨の濃淡の違いを学ぶ。 構成の変化を踏まえた作品制作をする。 | 試書（思・判・表） 作品（知・技） 鑑賞（主） 自作手本制作（主） 作品（知・技） |
| | 3 | | | | |

3 評価の観点

| | |
|---------------|--|
| 知識・技能 | 創造的な書表現をするために、基本的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付けようとしている。 |
| 思考・判断・表現 | 書の良さや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 書の創造的な活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造的な活動に取り組もうとする。 |

4 評価の方法

| |
|--|
| 知識・技能、思考・判断・表現、主体的に取り組む態度の3観点から総合的に評価する。 |
|--|

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

| |
|--|
| <p>一人一人が個性を生かしながら様々な書活動を行い、書を通しての自己表現ができるようになることを目標としています。「何ができるか」より「何ができるようになったか」を大切にしましょう。1時間の中での進歩、単元を通しての進歩、そして1年間を通しての進歩が感じられるような学習への取り組みを期待します。</p> <p>書道の学習においては、まずよく見ることが大切です。自らの感性に基づき作品や古典に素直な気持ちで向かいましょう。書の技法の習得は主として、古典の臨書によります。ただ枚数を重ねながら自分の解決すべき課題や問題点を見極め、技術を習得しましょう。</p> <p>45分授業です。開始5分前には教室に入り準備しましょう。提出物の出し忘れのないようにしましょう。備品として学校のもの・個人のものがありますが、ともに大切に扱きましょう。</p> |
|--|

| | | | |
|-----|---|----------|--|
| 単位数 | 4単位 | 学科・年次・学級 | 普通科 1年 1～8組 |
| 教科書 | Heartening English Communication (桐原書店) | 副教材等 | Heartening English Communication 学習ノート (桐原書店) 30日完成英語長文(日栄社) GTECアセスメント版 |

1 学習の到達目標

| |
|--------------------------|
| <p>別紙本校のCAN-DOリストに記載</p> |
|--------------------------|

2 学習の計画

| 前期学習指導計画 | | | | | | | | | | | |
|----------|------------------------|----------------|--|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------|------------------------------------|
| 月 | 育成する資質能力 (CAN-DO記述) | 学習項目 (教材名等) | 学習内容や学習活動 (言語活動等) | 評価の観点 | 領域 | | | | | 評価項目数 | 主な評価規準 (評価方法) |
| | | | | | 聞 | 読 | 取 | 発 | 書 | | |
| 4～5 | 別紙本校のCAN-DOリストに記載 | L1 | 英語を学習しながらNBA選手になる夢を実現した八村塁選手の半生を描いた物語文。自主・自律の精神を養い、他者との協力を重んずる態度を養う。 | 知 思 態 | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | 15 | 活動の観察 パフォーマンステスト ワークシート |
| 考查 | 第1回考查 | | | 知 思 態 | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | 6 | リスニング力を評価する複合問題 リーディング力評価する複合問題 |
| 5～6 | 別紙本校のCAN-DOリストに記載 | L2 | 捨てられた小型犬が警察犬として活躍するまでを述べた物語文。個人の価値を尊重し、その能力を伸ばす精神を培い、生命を尊ぶ態度を養う。 | 知 思 態 | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | 15 | 活動の観察 パフォーマンステスト ワークシート |
| 考查 | 第2回考查 | | | 知 思 態 | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | 6 | リスニング力を評価する複合問題 リーディング力評価する複合問題 |
| 9 | 別紙本校のCAN-DOリストに記載 | | プレゼンテーション1 | 知 思 態 | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | 9 | 活動の観察 パフォーマンステスト ワークシート |
| 後期学習指導計画 | | | | | | | | | | | |
| 9～10 | 別紙本校のCAN-DOリストに記載 | L3 | 世界の人々が受けている気候変動の影響と、問題への取り組みについて述べた説明文・意見文。自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養う。 | 知 思 態 | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | 15 | 活動の観察 パフォーマンステスト ワークシート |
| 考查 | 第3回考查 | | | 知 思 態 | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | 6 | リスニング力を評価する複合問題 リーディング力評価する複合問題 |
| 10～12 | 別紙本校のCAN-DOリストに記載 | L4 | 人間の心理や行動の特徴を利用し、創造的にボイ捨てをなくす方法を述べた論証文。公共の精神に基づき、主体的に社会に参画する態度を養う。 | 知 思 態 | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | 15 | 活動の観察 パフォーマンステスト ワークシート |
| | | L6 | 恐竜再生の可能性について論じた説明文。幅広い教養を身に付け、真理を求め態度や道徳心を養う。 | 知 思 態 | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | 15 | 活動の観察 パフォーマンステスト ワークシート |
| 考查 | 第4回考查 | | | 知 思 態 | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | 6 | リスニング力を評価する複合問題 リーディング力評価する複合問題 |
| 1～2 | 別紙本校のCAN-DOリストに記載 | L8 | 世界の冬の祭りを比較し、その共通性について論じた説明文。日本を始め他国の伝統や文化を尊重する精神を培う。 | 知 思 態 | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | 15 | 活動の観察 パフォーマンステスト ワークシート |
| | | | プレゼンテーション2 | 知 思 態 | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | 9 | 活動の観察 パフォーマンステスト ワークシート |
| 考查 | 第5回考查 | | | 知 思 態 | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | ○ ○ ○ | 6 | リスニング力を評価する複合問題 リーディング力評価する複合問題 |

| 評価の観点 | 聞くこと | 読むこと | 話すこと (やり取り) | 話すこと (発表) | 書くこと |
|---------------------------|-------------------|------|----------------|--------------|------|
| 知識 技能 | 別紙本校のCAN-DOリストに記載 | | | | |
| 思考 判断 表現 | | | | | |
| 主体的に 学習に 取り組む 態度 | | | | | |

| | |
|-------|--------------------------------|
| 評価の方法 | 3 観点から 4 技能 5 領域を総合的に判断し、評価する。 |
|-------|--------------------------------|

| | |
|--|--|
| 担当者からのメッセージ <small>(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)</small> | 授業でしかできないこと、家庭学習でもできることを判断し、日々の学習に取り組んでください。授業と家庭学習の両方が相互に積み重なることで英語力が高まります。また、家庭学習においては、スタサブを有効的に活用して励んでください。 |
|--|--|

| 評価の観点 | 聞くこと | 読むこと | 話すこと (やり取り) | 話すこと (発表) | 書くこと |
|---------------------------|-------------------|------|----------------|--------------|------|
| 知識 技能 | 別紙本校のCAN-DOリストに記載 | | | | |
| 思考 判断 表現 | | | | | |
| 主体的に 学習に 取り組む 態度 | | | | | |

| | |
|-------|---------------------------|
| 評価の方法 | 3観点から4技能5領域を総合的に判断し、評価する。 |
|-------|---------------------------|

| | |
|--|--|
| 担当者からのメッセージ <small>(確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)</small> | 授業でしかできないこと、家庭学習でもできることを判断し、日々の学習に取り組んでください。授業と家庭学習の両方が相互に積み重なることで英語力が高まります。また、家庭学習においては、スタサブを有効的に活用して励んでください。 |
|--|--|

| | | | |
|-----|-------------|----------|-------------------|
| 単位数 | 2単位 | 学科・年次・学級 | 1年次 1～8組 |
| 教科書 | 最新情報Ⅰ（実教出版） | 副教材等 | 最新情報Ⅰ 学習ノート（実教出版） |

1 学習の到達目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人の関わりについて理解を深めるようにする。

(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。

(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。

2 学習の計画

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
|----|---|----------------------|---|---|--|
| 前期 | 4 | 第1章 情報社会と私たち | 1 情報社会 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報社会の現状について理解する。 ・情報の特性について理解する。 ・情報のモラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート分析 ・ 考査得点 ・ 提出物 |
| | 5 | | 2 情報社会の法規と権利 3 情報技術が築く新しい社会 第1回考査 | <ul style="list-style-type: none"> ・知的財産について理解する。 ・他人の著作物を適切に利用したり、自分の著作物を公開したりする方法を理解する。 ・個人情報とプライバシーについて理解し、それらを保護する方法を身に付ける。 ・社会の中で活用されている情報技術について理解する。 ・さまざまな情報技術について理解し、課題解決の方法について考える。 | |
| | 6 | 第2章 メディアと情報デザイン | 1 メディアとコミュニケーション | <ul style="list-style-type: none"> ・メディアには種類があることを理解し、メディアの発達について知る。 ・メディアの特性について理解し、目的に応じたメディアを選択することができる。 ・コミュニケーションの形態には違いがあることを理解する。 ・インターネットを活用したコミュニケーションの特徴について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート分析 ・ 考査得点 ・ 提出物 |
| | 7 | | 2 情報デザイン 3 情報デザインの実践 第2回考査 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会の中で利用されている情報デザインについて理解する。 ・情報を正確に、わかりやすく伝える方法について理解する。 ・報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解する。 ・プレゼンテーションの手順とスライド作成について理解する。 ・Webページ作成の方法について理解する。 | |
| | 9 | 第3章 システムとデジタル化 | 1 情報システムの構成 2 情報のデジタル化 第2回考査 | <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの構成と動作の仕組みについて理解する。 ・ソフトウェアの種類とインタフェースについて理解する。 ・アナログとデジタルの違いについて理解する。 ・2進数と情報量の関係について理解する。 ・コンピュータの演算の仕組みを理解する。 ・数値や文字をデジタル化する方法を理解する。 ・コンピュータでの数値の計算方法について理解する。 ・音声をデジタルで表現する方法について理解する。 ・静止画や動画をデジタルで表現する方法について理解する。 ・情報のデータ量を小さくする方法について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート分析 ・ 考査得点 ・ 提出物 |
| | 9 | 第4章 ネットワークとセキュリティ | 1 情報通信ネットワーク | <ul style="list-style-type: none"> ・情報通信ネットワークの構成について理解する。 ・ネットワークを効率的に利用するための取り決めについて理解する。 ・Webページとメールの仕組みについて理解する。 ・ネットワークを通じてデータを効率よく転送する工夫について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート分析 |

| 学期 | 月 | 単元名 | 学習項目 | 学習内容や学習活動 | 評価の材料等 |
|----|--------------|-------------------------------|---|--|---|
| 後期 | 10 | 第4章 ネットワーク とセキュリ ティ | 2 情報セキュリティ 第3回考査 | <ul style="list-style-type: none"> 脅威に対するさまざまな安全対策について理解する。 情報セキュリティを確保する方法と技術について理解する。 情報を安全に取り扱うための技術について理解する。 | <ul style="list-style-type: none"> ワークシート分析 考査得点 提出物 |
| 後期 | 11 12 | 第5章 問題解決とそ の方法 | 1 問題解決 2 データの活用 3 モデル化 4 シミュレーション 第4回考査 | <ul style="list-style-type: none"> 問題解決の手順について理解する。 問題の発見の方法について理解する。 問題を明確化する方法について理解する。 解決案を検討したり整理、分析したりする方法について理解する。 合意形成を目指した解決案を決定する方法について理解する。 実行した解決案を評価する方法について理解する。 データを収集したり整理したりする方法について理解する。 表計算ソフトの活用方法について理解する。 データを適切なグラフや図に表現する方法を理解する。 データ分析の手法について理解する。 データベースの種類とその仕組みについて理解する。 モデル化の意味について理解する。 モデル化の分類について理解する。 モデル化する手順と方法を理解し、さまざまなモデルを作成する。 シミュレーションの意義について理解し、確率的モデルのシミュレーションを行う。 モンテカルロ法を用いて確率的モデルのシミュレーションを行う。 問題解決のためにシミュレーションを活用する。 | <ul style="list-style-type: none"> ワークシート分析 考査得点 提出物 |
| | 1 2 3 | 第6章 アルゴリズム とプログラミ ング | 1 プログラミングの方法 2 プログラミングの実 践 第5回考査 | <ul style="list-style-type: none"> アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。 プログラミング言語の種類とその特徴について理解する。 変数を使用したプログラムを作成する。 関数を使用したプログラムを作成する。 多くのデータから目的のデータを探し出すプログラムを作成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ワークシート分析 考査得点 提出物 |

3 評価の観点

| | |
|---------------|--|
| 知識・技能 | 情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。 |
| 思考・判断・表現 | 事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。 |
| 主体的に学習に取り組む態度 | 情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。 |

4 評価の方法

| |
|---|
| 「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点から総合的に判断し、評価する。 |
|---|

5 担当者からのメッセージ (確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> できるだけ授業中にわかるうとする態度が大切です。 理解できないことは調べるなり、質問するなり早めに手を打つことが大切です。 受け身的な考えや態度はとらないようにしましょう。疑問をもった内容は自分で調べ、自分で解くように努めましょう。毎時間、疑問を持って授業を受けましょう。 |
|--|